

日本綠化工学会 コミュニティレター

Community Letter of the Japanese Society of Revegetation Technology



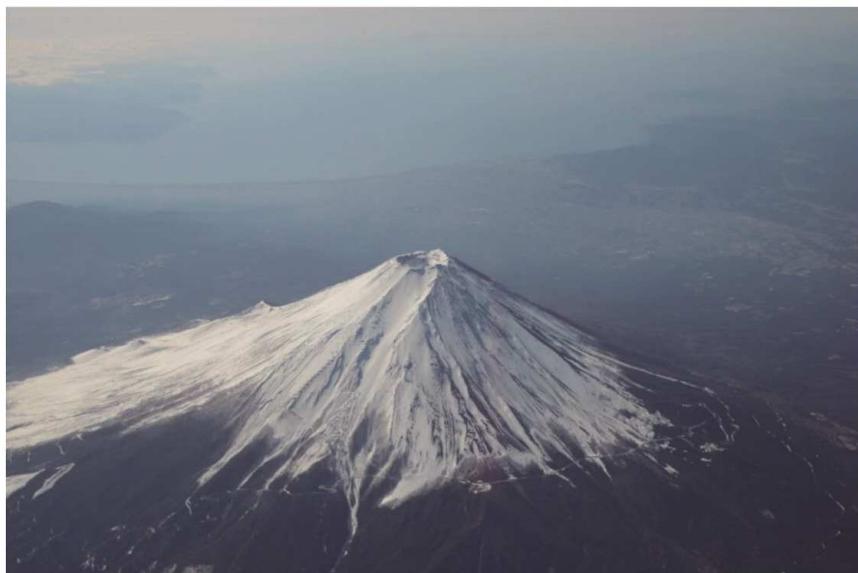
創刊号 2024年1月末日 発行

本学会誌の完全電子化が2024年8月刊行の50巻1号よりスタートすることに伴い、J-STAGEに非掲載の学会記事、コラム類、広告などは、新たに刊行する「ニュースレター(仮称)」に掲載し、配付することとなりました。

そこで、“日本綠化工学会コミュニティレター(仮称)”を暫定的に作成しました。小誌は、学会運営に関わる、あるいは綠化工に関する多種多様な情報を提供することで、全ての学会員同士の交流を一層深めることを目的として、8月、11月、2月、5月の年4回の定期刊行を予定しています。会員の皆様がより本学会を身近に感じられるよう、皆さんとともに作り上げていきます。論文や技術報告にはならないけれど気になっていること、緑化とは関係ないけれどつぶやきたいこと、など情報を寄せ頂ければ幸いです。(た)〈情報提供先：r3tachib@nodai.ac.jp 担当 橋まで〉

本号の主な内容

書評 BOOK REVIEW	1
第54回 日本綠化工学会大会研究集会報告	3
第17期 第10回理事会 議事録	5
第17期 第2回評議員会の開催と議事録	8
令和5年 通常総会の開催と議事録	9
会員の異動	25
編集後記	26



(富士山上空。背後には駿河湾とその北部沿岸平野が広がる。2022.2.9 橋撮影)

〈巻頭写真〉地殻変動の激しい国土の象徴的火山、富士山。その圧倒的な存在感に誰もが畏敬の念を抱きます。厳しい自然環境から享受する豊かな恵み。その調和を常に考えなくてはなりません。(橋)

令和6年能登半島地震にて被災されました方々に心よりお見舞い申し上げます。

書評 BOOK REVIEW

砂防の観測の現場を訪ねて④ 自然との共生のために

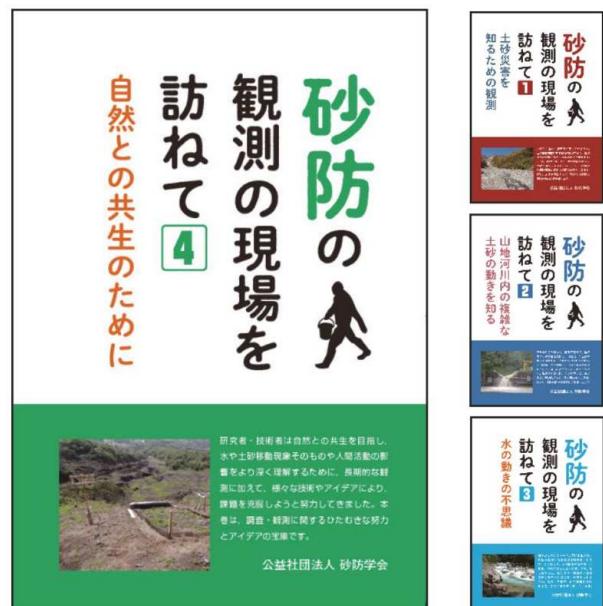
内田太郎・若原妙子・池田 誠・小竹利明・千葉 幹・鈴木 崇・松尾新二朗 編, 156 頁, 定価 2,200 円
発行: 公益社団法人砂防学会 ISBN 978-4-9905000-4-7

本書は、砂防学会が砂防に関するフィールド調査や観測から得た知見やアイデアを広く発信する「砂防の観測の現場を訪ねて」というシリーズの第4巻であり、2023年4月発行の最新巻である。本シリーズは新型コロナ感染症が深刻化した2020年3月に第1巻が発行されてから毎年1冊発行している。厳しい行動制限が課せられた状況にもかかわらず本シリーズの発行に精力的に取り組んできた編集委員会の各位に敬意を表したい。本書における観測の現場は、第1~3巻で紹介された山地における土石流や崩壊など激しい土砂移動の現場とは異なる。例えば自然災害や人間活動の影響を受けた山地の細粒土砂・栄養塩・放射性物質の流出を観測した現場など、合計13の現場が各章に分かれて紹介されている。また砂防の主要な研究フィールドである渓流周辺の中長期にわたる環境、地形の変動が見られる現場の実態が解説されている。具体的には山地の岩盤斜面にみられる大規模な地盤変動だけでなく、生物(植物や魚類等)の生息域の環境変動も掲載されている。このように本書は、自然災害や人為の影響で荒廃した山地の緑化と植生回復の経過、地形変動などの観測テーマが多岐にわたっているため、読者が飽きない構成となっている。さらに8つのコラムが付属しており、読者は著者が体験したフィールド調査の苦労や醍醐味を知ることができる。本書は、これからフィールド調査や環境計測を始める大学生のみならず緑化工技術者にとっても座右の書となるだろう。

砂防学は、明治時代の日本各地に見られたのは山の復旧や荒廃渓流における不安定土砂の制御技術の開発を目的として発展した学問である。これに対し緑化工学は、砂防学の研究対象としていた荒廃山地における緑化技術の開発がルーツであり、戦後高度成長期の国土開発に伴って大規模造成されたのり面における緑化技術の発展に大きく貢献した。本書を手に取れば緑化工学の研究フィールドが、本書の研究フィールドと重なっていることを実感できるであろう。

編集委員会は本シリーズの発行にあたり、装丁を工夫している。各巻の装丁は週刊誌と同じB5判、130~160ページのオールカラー印刷である。全巻は持ち運びやすいサイズであり、現場をカラー写真で鮮明に表現できる光沢紙が使用されている。こうした装丁には、参考書として現場に持ち込み、活用してほしいとの編集委員会の思いがこめられている。

緑化工学のフィールド調査では、本書以外の既刊書も役立



本書（第4巻）

既刊書（第1~3巻）

つため通読をお勧めする。第1巻から第3巻の概要を紹介する。なお各巻の価格は本書と同じである。第1巻は土砂災害がなぜ発生するのかを知るために観測、第2巻は山地河川の多様な土砂の動きをはかる観測、第3巻は山地に発生する地表流や地下水の動きをはかる観測などに関する現場、そのほか興味深いコラムが多数掲載されている。全巻揃えれば野外観測の基礎知識が幅広く習得できるに違いない。

毎年開催されている日本緑化工学会大会や日本緑化工学会誌では、砂防学会と同じ観測の現場だけでなく、緑化工ならではの観測(あるいは観察)の現場を対象とした研究が発表されている。日本緑化工学会の発表のなかにも、会員にとっておきの現場が見つかるはずである。よって、今回紹介した本書は、緑化工の現場を世間に伝えるための参考資料になるとを考えている。

最後に「砂防の観測の現場を訪ねて」シリーズは一般書店で取り扱われていない。購入希望の際はアマゾンもしくは砂防学会のHPから注文していただきたい。今後の続巻発行に期待しつつ本書の紹介を終わりにする。

小川泰浩（森林総合研究所）

NETIS

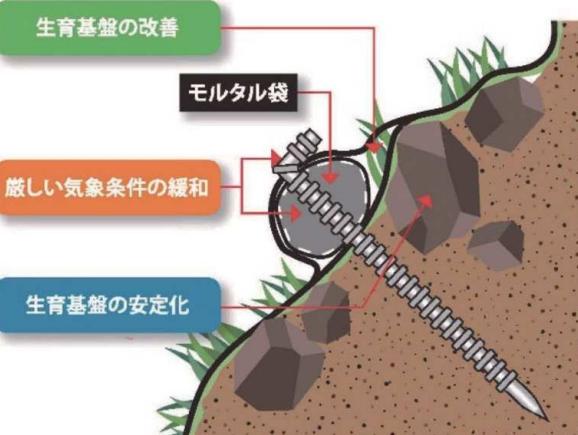
No.CG-210008A

特許第6495744号

緑化基礎工付 植生工 キョウジンガー工[®]

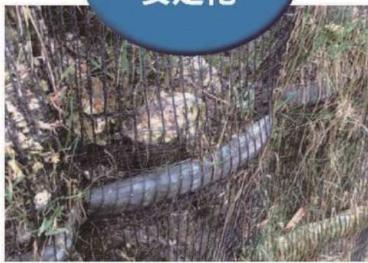


新たな 緑化基礎工 である
「モルタル袋」を備えた
植生基材マットです。



緑化基礎工(モルタル袋)の3つの目的

生育基盤の 安定化



モルタル袋 は、のり面の凹凸に密着したまま固化し、高強度のネットとの複合効果により生育基盤の侵食・移動を防止します。

生育基盤の 改善



モルタル袋 が植生の基盤となる小段を形成し、植物が永続しやすい環境を作ります。

厳しい 気象条件の 緩和



モルタル袋 とアンカーピンの一体化構造により、植物の発芽生育に支障を与える凍上などの要因を緩和します。



国土環境緑化協会

本部 ● 〒708-0876 岡山県津市高尾573-1 日本植生(株)内 TEL.0868 (28) 0460
URL:www.kanryokukyo.com

環・緑・協

●北海道支部 TEL.011 (707) 6201
●東北支部 TEL.022 (391) 9761

●関東支部 TEL.03 (5244) 1392
●中部支部 TEL.052 (773) 4891

●近畿支部 TEL.06 (6388) 8283
●中国支部 TEL.082 (962) 7331

●四国支部 TEL.089 (957) 1585
●九州支部 TEL.092 (526) 0588

第 54 回 日本綠化工学会大会研究集会報告

解説「生物多様性に配慮した緑化植物の取り扱い方に関するガイドライン 2023」

日本綠化工学会緑化植物委員会

1. 研究集会概要

第 54 回日本綠化工学会大会において、2023 年 9 月 20 日に日本綠化工学会緑化植物委員会の企画による研究集会を開催した。約 90 名の参加者を集め、本テーマへの関心の高さがうかがわれた（写真）。開催概要は下記の通りである。

日 時：2023 年 9 月 20 日（水）16:15～17:45

会 場：朱鷺メッセ 201A 会議室

テマ：解説「生物多様性に配慮した緑化植物の取り扱い方に関するガイドライン 2023」

プログラム：

(1) ガイドラインの目的、緑化水準の設定、地域性種苗・国内産在来緑化植物を使用する場合の植物材料の選定方法（大阪公立大学 今西純一）

(2) 外来牧草類による生態系への影響、外来牧草類等を使用する場合の植物材料の選定方法（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 江川知花）

(3) 目標群落の設定、成績判定（東興ジオテック（株）吉田 寛）

(4) 準備工の計画・実施（雪印種苗（株） 入山義久）

(5) 緑化目標達成に向けた植生管理工（西日本高速道路（株） 川原田圭介）



2. 開催趣旨

緑化において地域の生物多様性に配慮することは益々重要になってきている。日本綠化工学会は 2019 年 5 月に「生物多様性保全のための緑化植物の取り扱い方に関する提言 2019」を公表し、短期ビジョンとして「地域性系統の植物による緑化の推進」や「外来植物による緑化におけるリスク管理の実施」を挙げた。本研究集会では、これらのビジョンの実現に向けて 2023 年 5 月に新たに公表された「生物多様性に配慮した緑化植物の取り扱い方に関するガイドライン 2023」について解説を行った。

3. 研究集会記録

ガイドライン 2023 は、生物多様性に配慮した緑化植物の取り扱いのあり方を示すことによって、政策立案者や発注者、計画・設計者、種苗供給者、施工者、植生管理者等の緑化関係者に参考となる資料を提供すること、また、現行の予算確保、発注～施工等のプロセスの見直しや既存の手引きや指針等のアップデートを促すことを意図して作成された。これらの目的達成の一助とするため、研究集会で使用した発表スライドと研究集会の動画記録を、学会ウェブサイトに掲載する予定している。なお、解説は要点のみであるため、詳細はガイドライン本体をご確認いただきたい。



写真 研究集会会場の様子

それは、人を守る緑。

自然の植生を再生し、 地球環境を守る第一歩をお手伝いします

ロンタイ新製品のご案内
NEW ロンケット 風来坊

~その飛来種子、「ワラ」が逃しません!~
自然侵入促進型製品『風来坊』がリニューアル!
ワラの凹凸が飛来種子を逃さずキャッチ!

●ワラの装着により
種子の捕捉効果がアップ!
●ワラが飛来・埋土種子を
保護し、生育を促進!

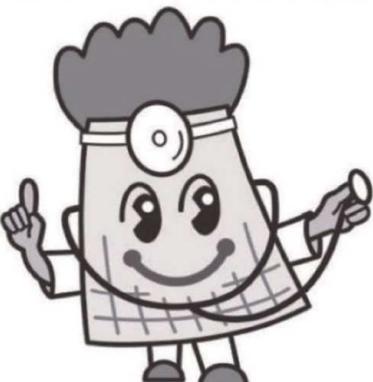
ロントイ株式会社

【本社】〒570-0011 大阪府守口市金田町3丁目1番11号
【TEL】(06)6902-9401 【FAX】(06)6905-9070
【支店・営業所】札幌・仙台・関東・静岡・大阪・四国・広島・福岡・鹿児島
【E-mail】info@rontai.co.jp 【ホームページ】https://www.rontai.co.jp

QRコード

ロンタイは2022年9月1日、SDGs宣言を行いました。

地球の擦り傷専門医



Dr. のりめん

北海道地方支部	TEL. 011-801-3613
東北地方支部	TEL. 022-295-6555
関東地方支部	TEL. 03-5608-7157
北陸地方支部	TEL. 025-285-6456
中部地方支部	TEL. 052-369-1500
近畿地方支部	TEL. 06-6266-5708
中国地方支部	TEL. 082-231-2109
四国地方支部	TEL. 0875-24-1806
九州地方支部	TEL. 092-791-9735

JSPA

一般社団法人 全国特定法面保護協会

〒105-0004 東京都港区新橋5丁目7番12号 丸石新橋ビル3F
TEL. 03-3437-2588 FAX. 03-3437-2566 <http://www.norimen.or.jp>

会長 審輪洋一

第17期 第10回理事会 議事録

日時：令和5年9月19日（火）15:00～17:30
場所：東日本高速道路株式会社 新潟支社 会議室（新潟県新潟市中央区天神1-1 新潟プラーカ3）

出席者：高橋輝昌、岩崎 寛、今西純一、入山義久、内田泰三、大貫真樹子、岡 浩平、小川泰浩、梶川昭典、橋隆一、田中 淳、辻 盛生、中島敦司、中村華子、則久雅司、福井 亘、宗岡寿美、森本淳子（以上理事）、吉崎真司、田中賢治（以上監事）

委任状提出：上野裕介、倉本 宣、早坂大亮、山中典和
欠席：大石智弘、築瀬知史

第17期第10回理事会が令和5年9月19日（火）に開催され、以下の議題について審議された。

1. 総会議案について

令和5年通常総会（以下、R5総会とする）（令和5年9月21日（木）開催）の議案について、各事業・研究部会の担当理事が内容を報告、総会資料を確認した。

2. 年会費徴収時期の変更について

経理部会 入山理事より、年会費徴収時期の変更について説明された。変更は令和6年度分（2024年度分）から実施し、年会費請求時期を4月1日、振込期限（新設）を7月20日（自動引落日も同日）とする。これにより会費収入の見込みが現在より4か月程度早まり、資金繰りの的確化が期待できる。また、大会参加に年会費の支払いを条件として設定することが可能となる。

上記はR5総会にて説明し、2024年4月1日より適用する。学会事務局とは、事業年度前となる7月31日までの会費振り込みを前受金として事務処理をおこなうことが了承されている。

3. メーリングリストgreen-ifの管理について

総務部会 内田理事より、メーリングリストgreen-ifの管理を評議員の高林氏、宮本氏に担当いただく（両氏とも承諾）ことが報告された。両氏が管理ツールの特性を比較検討し、「Google グループ」を使用することが決定した。

4. 次年度大会について

総務部会 内田理事より、次年度大会は東京農業大学（大会委員長：橋理事）での開催が決定したことが報告さ

れた。日程は、令和6年9月12日（木）～14日（土）を予定する。

また、次回ELR大会の幹事が当学会であり、今後早い時期に開催計画を話し合うことが周知された。

5. 学会誌電子化の関連事項

経理部会 広告ワーキンググループ 田中淳理事より、学会誌第50巻1号（2024年7月発行）からの学会誌電子化（冊子印刷の終了）に向けてのスケジュールが示され、今後、購読会員、賛助会員への連絡・事情説明のための周辺整備として、ニュースレター、ホームページ整理と各部会での運用、バナー広告掲載などの作業を、概ねの期日を設け始動する必要があることが周知された。

6. 事業部会の報告・連絡

6-1 学会誌の進捗報告（編集部会）

編集部会 岡理事から、学会誌の進捗状況および、関連事項が報告された。

1) 第54回大会特集号（第49巻1号）

令和5年8月31日発行済。

2) Editorial Manager 導入について

大会特集号の論文投稿数が、論文23編うち、掲載13編（採択率56.5%）であり、審査が厳しいとの声があることが報告された。今後、査読者規定などの作成を検討する案があがっている。技術報告は、投稿数23編すべて掲載されているが、同様に判定が厳しいと聞いており、研究者以外の民間企業からの投稿意欲を削がない対策が必要との話があった。これについて、技術報告部門の編集委員長を2名とし、研究者・民間企業所属の各1名を置くなどが提案された。

6-2 その他事業部会

R5総会に報告のとおり。

7. 研究部会の報告・連絡

7-1 緑化植物委員会

緑化植物委員会 今西理事（委員長）より、会告「生物多様性に配慮した緑化植物の取り扱いに関するガイドライン2023」について、NPO法人日本綠化工協会主催 第43回綠化工技術講習会（令和5年7月24～25日、於 東京農業大学）にて講師を務めたことが報告された。

生物多様性に関しては、世界的にOECM（Other

Effective area based Conservation Measures : 自然公園等の保護区以外に民間等の取り組みにより生物多様性の保全が図られている地域)への取り組みが促進されており、特に民間企業の活動が加速していることから、今後、国内でも「生物多様性への配慮」が重要になってくるので、会告の公表は大きな意味があるとの認識が示された。

尚、緑化植物委員会は、今新潟大会で研究集会を開催

(研究集会 5:9月20日(水))し、これをもって委員会を解散することも周知された。

7-2 その他研究部会

R5 総会に報告のとおり。

(以上)



植物活性剤フジミン®の 固体化資材 **フジミン Forest**

■ フジミンForestとは

国内の森林資源を原料に製造している植物活性剤「フジミン®」と肥料を混ぜ合わせて固体化した植物活性機能を持つ固体資材です。森林土壤に存在する腐植物質「フルボ酸」を高濃度に含有しており様々な効果を発揮します。

肥料吸収の効率化

土壌pHの緩衝作用

光合成の活性化

土壌の团粒化促進

持続性の向上

降雨でゆっくりと溶けることでフルボ酸や肥料成分が時間をかけて土壌に浸み込むため、液体資材のフジミン®よりも効果の持続性が向上しました。

施工性の向上

フジミン®は水で500倍に希釈して使用する必要がありますが、本製品は希釈する必要がないため施工性が向上しました。



■ 効果確認試験

ヨモギとパミューダグラスを播種し、フジミンForestを入れた培地と入れない培地で生育を観察。開始から2週間で写真のように差が生じ、フジミンForestの効果を確認しました。



POINT

フジミンForestを投与した培地は、ヨモギやパミューダグラスが徒長することなく、全体に溝通なく生育しています。



国土防災技術株式会社

事業本部 環境事業部 緑環境事業課 〒105-0001 東京都港区虎ノ門3丁目18番5号

TEL: (03) 3432-3567 (代) FAX: (03) 3432-3576 MAIL: green@jce.co.jp URL: <https://www.jce.co.jp/>



フジミンページ 公式YouTube

第17期 第2回 評議員会の開催と記録

第17期第2回評議員会の開催

第17期第2回評議員会が、令和5年9月20日（水）に新潟コンベンションセンター朱鷺メッセ 会議室201（於 新潟県新潟市）において開催された。翌日に開催する令和5年通常総会議案の報告および、正、副会長から特に意見を頂きたいこととして事前に示されていた以下の内容について、意見交換を行った。

- (1) Editorial Managerでの投稿・査読に対する意見
- (2) 学会誌電子化後の学会からの情報発信のあり方
- (3) これまでのオンラインでのイベント（セミナーなど）

に対する、または、今後の学会行事の対面・オンラインの使い分けについての意見

- (4) 学会活動全般への意見

以下に主な意見をとりまとめ、記載した。

第17期第2回評議員会の記録

日時：令和5年9月20日（水）11:15～12:45

場所：新潟コンベンションセンター朱鷺メッセ 会議室201（新潟県新潟市中央区万代島6-1）

1. 令和5年通常総会議案の報告

内田総務部会長より、令和5年9月21日（木）に開催する令和5年通常総会議事について、次第に沿って報告された。特に周知する事項として、1) 財政の健全性確認、2) 次年度から会費徴収時期の変更（4月1日から受け入れ）、3) 学会誌第50巻1号から完全電子化、4) 役員改選・新役員の承認、について重ねて周知された。（配布資料：令和5年通常総会議案）

2. 学会の活動および運営についての意見交換

2-1 Editorial Managerでの投稿・査読について

学会誌編集委員方から、Editorial Manager（以下、EMとする）の導入によって、査読にかかる労力は慣れに従い概ね軽減が期待されるとの報告があった。一方で、EM導入後、論文掲載への判定が難しくなったとの意見が多く、査読内容が厳しく修正を断念する場合もみられていることが大会号編集担当方から報告され、投稿数の減少を危惧す

る意見もあった。評議員からは、剽窃ツール（既存論文との類似性の検出）による確認（目安として）や、査読の基準・査読者心得などの整備が必要との意見があった。

2-2 学会誌電子化後の学会からの情報発信について

冊子印刷の終了に伴い発行が予定されているニュースレター（以下、NLとする）について、配信内容や広告の掲載仕方について意見が交わされた。会場からは、学会誌刊行と同様にNLも定期配信で会員へ届くのがよい、NLへJ-stageへ掲載した論文と企業広告（賛助会員）も組み入れてほしいなどの意見があった。

また、学会誌の閲覧について、J-stageでは掲載記事ごとのダウンロードとなるが、現行のように1冊分を一括してダウンロードできるようにならないかという要望もあつた。

2-3 オンラインによる学会行事の開催について

学会行事のオンライン開催への意見交換があり、交流・議論など意思疎通の場合は対面開催がよいものの、オンラインによる参加の気軽さ（学会への関心づくり）、移動距離の支障なく参加できるなどの利点が認識されており、概ね良好な意見であった。

2-4 学会活動全般への意見

昨年開催のELR2022つくば大会や、記念事業、緑化セミナーによって会員数が増加したことから、学会活性化について意見が交わされた。会場からは、会員登録にてニュースメールの無料配信、SNS活用で学会活動をPRする、動画配信などの提案があった。

また、次回ELR大会は当学会が主催となるため、評議員方に積極的な投稿・発表をお願いし、活気ある大会にしましょうとの声掛けがあった。

以上の意見交換後、高橋会長より評議員方々へあいさつがあり、閉会した。

（以上）

令和5年 通常総会の開催と議事録

令和5年通常総会の開催

令和5年通常総会が、令和5（2023）年9月21日（木）に開催された。高橋輝昌会長から開会の挨拶があり、その後、高橋会長が議長に選出された。なお、開催日の会員数590名に対し出席者88名、委任状が78通であり、定足数（118名）を越えて総会は成立した。

令和5年通常総会 議事録

日時：令和5（2023）年9月21日（木）13:00～14:15

場所：新潟市コンベンションセンター朱鷺メッセ 会議室302（新潟県新潟市中央区万代島6-1）

1. 第一号議案：令和4（2022）年度事業報告

内田泰三総務部会長より、標記について資料（別表1）に基づき報告が行われ、承認された。

2. 第二号議案：令和4（2022）年度決算報告

入山義久経理部会長より、標記について資料（別表2, 3, 4, 5）に基づき報告が行われ、承認された。また、吉崎真司監事および、田中賢治監事より経理処理は適正に行われたとの監査結果が報告された（別表3）。

3. 第三号議案：令和5（2023）年度事業計画案

内田総務部会長より、標記について資料（別表6）に基づき説明があり、承認された。

4. 第四号議案：令和5（2023）年度予算案

入山経理部会長より、標記について資料（別表7）に基づき説明があり、承認された。

5. 第五号議案：役員の改選

議長より、第18期役員互選のため事前に正会員から推薦を受け付け、検討した事務局案が提出され、理事28名、監事2名が以下の通り推薦され、会場に諮り承認された。なお、選出された候補者は、全員就任を承諾した。

（理事）今西純一、入山義久、岩崎 寛、上野裕介、内田泰三、大貫真樹子、岡 浩平、小川泰浩、小野幸菜、梶川昭則、倉本 宣、篠田 貴、高橋輝昌、田崎冬記、橘 隆一、田中 淳、辻 盛生、中村華子、早坂大亮、福井 亘、松本浩、眞見和樹、三木直子、宗岡寿美、森川政人、森本淳子、築瀬知史、山本 聰、（監事）田中賢治、吉崎真司

また、総会を一時中断して行われた第18期第1回理事会にて、役員の互選により高橋輝昌理事が会長に、岩崎 寛理事および、築瀬知史理事が副会長に選出されたことが報告された。

以上で議事が終了し、閉会した。

なお、総会の開催前に、令和4年度日本緑化工学会賞の授与式が行われた。岩崎 寛学会賞選考委員長による選考経過の報告に引き続き、高橋会長から技術賞が中村華子氏に贈られた。

（別表1）日本緑化工学会 令和4（2022）年度事業報告

（別表2）日本緑化工学会 令和4（2022）年度収支決算報告書

（別表3）貸借対照表、財産目録、会計監査報告

（別表4）日本緑化工学会 令和4（2022）年度基金収支報告書

（別表5）日本緑化工学会 令和4（2022）年度阿蘇小規模崩壊地復元プロジェクト収支報告書

（別表6）日本緑化工学会 令和5（2023）年度事業計画案

（別表7）日本緑化工学会 令和5（2023）年度予算書案・基金予算案

（以上）

(別表 1) 第一号議案

日本綠化工学会 令和4年度事業報告

(令和4年／2022年8月1日～令和5年／2023年7月31日)

1. 第53回日本綠化工学会大会 3学会合同大会「ELR2022 つくば」として開催

開催年月日：令和4年9月20日（火）～23日（金）

開催地：つくば国際会議場（茨城県つくば市竹園）および周辺

発表題数：283題（口頭発表 107件 ポスター発表 176件）

当学会発表件数のうち 論文15件、技術報告35件

参加者：766名（会場参加 472名、オンライン参加 294名）

エクスカーション（小貝川コース・筑波山コースの2コース）実施（9月20日）

台風の影響で小貝川コースは中止。筑波山コースのみ実施。

公開シンポジウム「Nature Positive を実現させるには -2030年にむけて」を開催（9月21日）
会場＋オンライン開催。

自由集会（企画研究集会） 16件 会期中に開催。

2. シンポジウム

(1) ELR2022 つくばにて公開シンポジウムを開催

開催年月日：2022年9月21日（水）13:30～16:30

会 場：つくば国際会議場 中ホール（オンライン配信を併用）

テー マ：Nature Positive を実現させるには -2030年にむけて

参 加 者：会場（ホール及び別室） 202名、WEB参加 603名

3. 現地見学会

(1) ELR2022 つくば エクスカーションを実施（定員をバス乗車半数に限定して実施）

開催年月日：2022年9月20日（火）

筑波山コース 参加者：12名 ※小貝川コースは台風の影響で中止。

※企画・事業部会の企画による見学会は行いませんでした。

4. 緑化工セミナー（記念・企画事業）

学会諸活動をPRすること、生や若手に活動内容を積極的に伝え、当学会の魅力を伝えることを目的として「緑化工セミナー」を企画・開催。

「技術を学べるセミナー」 企画担当：梶川昭則理事

開催日：2023年2月22日（水） 実施方法：オンライン（Zoomミーティング）

テーマ：「グリーンインフラの評価と活用方法～グリーンインフラを身近に感じる手法紹介～」

参加者：104名

「未来の緑化工セミナー」 企画担当：倉本 宣理事

開催日：2023年7月15日（土） 実施方法：オンライン（Zoomミーティング）

テーマ：「ヒトが作る生物多様性」

話題提供者：片山暖那氏、古野正章氏 参加者：47名

5. 研究会等

(1) 生物多様性緑化研究部会

「ナラ枯れとその周辺課題について考える 連続講演会」を毎月1回オンライン開催（共催）。

主催：明治大学農学部 応用植物生態学研究室 後援：一般財団法人 世田谷トラストまちづくり

周知方法：運営メーリングリスト登録者へ案内を送付。

参加人数：各回30～40名

第5回：2022年8月24日 「森が元気に、人が元気に！ 矢作川 森の健康診断」

第6回：2022年9月29日 「クビアカツヤカミキリの市民科学的調査」

- 第7回：2022年10月19日 「2022年のナラ枯れをふりかえる」 ML参加者
第8回：2022年11月16日 「菊炭と台場クヌギ」
第9回：2022年12月21日 「カエンタケの生態～分類・ナラ枯れ・毒成分」
第10回：2023年1月11日 「尼崎の森中央緑地 100年の森づくり」
第11回：2023年2月6日 「谷戸の家」の背景の雑木林の変遷
第12回：2023年3月9日 「日本一の里山林と台場クヌギ」

2023年4月からは、新シリーズ：「未来の里山における人と自然を考える 連続講演会」として開催。

- 主催：明治大学農学部 応用植物生態学研究室 後援：一般財団法人 世田谷トラストまちくり
第1回：2023年4月26日 石森佳子「生物多様性の要・地域の在来植物での花壇づくり」
第2回：2023年5月16日 磯谷達宏「丘陵地で発生し得る地形的搅乱と植生」
第3回：2023年6月13日 井田秀行「江戸時代から発生していたナラ枯れについて」
第4回：2023年7月3日 山崎理正「カシノナガキクイムシの寄主探索様式について」

(2) 海岸林・沿岸域緑化研究部会 第4回公開勉強会（オンライン）の開催

開催日時：2022年8月26日（金）17:00～19:00

開催方法：オンライン開催（zoom）

テーマ：「海岸の連続性を考える」

(3) 都市緑化技術研究部会 2022年大会（ELR2022つくば）にて研究集会を企画

開催日時：2022年9月21日（水）16:45～18:30 会場：小会議室406+オンライン

テーマ：ポストコロナ時代の魅力的な都市緑地を考える

(4) 斜面緑化研究部会

2022年大会（ELR2022つくば）にて研究集会を企画

開催日時：2022年9月21日（水）18:45～20:30 会場：小会議室406+オンライン

参加者：約50名

テーマ：「高強度の降雨に対応する斜面緑化を考える」

日本学術会議公開シンポジウム／第15回防災学術連携シンポジウム：「気候変動がもたらす災害対策・防災研究の新展開」（2023年4月11日（火）開催）への参加

話題提供：「高強度の降雨に対応する斜面緑化を考える」 橋 隆一（斜面緑化研究部会／東京農業大学）
日本緑化工学会誌48巻4号（2023年5月）へ特集：「高強度の降雨に対応する斜面緑化を考える」を掲載
日本緑化工学会誌48巻4号（2023年5月）へ「斜面緑化研究部会 勉強会（第10回）開催報告」を掲載

(5) 生態・環境緑化研究部会

① 2022年大会（ELR2022つくば）にて研究集会を開催

日程：2022年9月22日（木）16:45～18:30 会場：小会議室303+オンライン

参加者：120名

テーマ：「30by30を見据えて進める地域性種苗緑化の取り組み」

日本造園学会 ランドスケープ研究86巻4号（2023年1月）の特集：「在來の草本植物を用いた植栽事業の現状と可能性」へ、「地域性種苗の緑化普及を目指した取り組み—阿蘇の草原植物の活用と地域活性化」を寄稿

③ 阿蘇の現地プロジェクトの継続および関連活動（阿蘇ワーキングチーム）

・現地活動 地域性種苗活用の現地流通仕組み作りや採取量、性状調査などを実施

・波野地域の方と共に写真展「それぞれが見つけた阿蘇の自然と風景」2023年5月開催

・環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所と連携して地域性種苗の利活用促進に関わる活動を継続

（2022年度地域性種苗緑化の試験施工に關わる助言を行う「令和4年度阿蘇くじゅう国立公園における地域性種苗による緑化普及検討業務」を依頼され実施 =2023年3月完了）

- ・阿蘇草原再生協議会への参加
- ・現地活動助成金：公益財団法人自然保護助成基金 協力型助成（2023年4月～2024年3月）

(6) 緑・健康研究部会 編集部会と共同で研究倫理および論文投稿に関するセミナーを企画・開催

開催日時：2023年1月11日（水）18:30～20:00 Zoomによるオンライン開催

テーマ：「論文・技術報告の作成・投稿に関する注意点」 参加者：40名

本セミナーを録画した動画は、以下の学会ホームページから視聴可能。

http://www.jsrt.jp/publication/seminar_20230111.html

(7) ELR2022 つくば 企画研究集会

① 企画担当：緑化植物委員会

開催日時：2022年9月23日（金）15:00～17:00 会場：小会議室405+オンライン

テーマ：生物多様性保全のための緑化植物の取り扱い方に関するガイドラインの検討状況について

参加者：80名

② 企画担当：今西亞友美・岡 浩平

開催日時：9月21日（水）16:45～18:30 会場：小会議室405+オンライン

テーマ：OECMで活きる！生物多様性に配慮した緑化工学

③ 企画担当：小林達明・森本淳子・岡 浩平

開催日時：9月21日（水）18:45～20:30 会場：小会議室405+オンライン

テーマ：生態系のレジリエンスと修復・緑化

企画担当：平林 聰・加藤 順

開催日時：9月22日（木）18:45～20:30 会場：小会議室303+オンライン

テーマ：i-Treeによる生態系サービス評価－事例紹介と今後の課題

6. 学会誌の発行

(1) 第48巻1号（デジタル版+冊子版）：令和4年8月31日発行 230ページ（第53回大会特集号）

(2) 第48巻2号（冊子版）：令和4年11月30日発行 114ページ

(3) 第48巻3号（デジタル版+冊子版）：令和5年2月28日発行 110ページ

(4) 第48巻4号（デジタル版+冊子版）：令和5年5月31日発行 82ページ

・第48巻2号に特集「技術資料への投稿のすすめ」を掲載

・第48巻3号に特集「ポストコロナ時代の魅力的な都市緑地を考える」・「i-Treeによる生態系サービス評価－事例紹介と今後の課題」・「OECMで活きる！生物多様性に配慮した緑化工学」・「生態系のレジリエンスと修復・緑化」を掲載

・第48巻4号に会告：「生物多様性に配慮した緑化植物の取り扱い方に関するガイドライン2023」および、特集「技術を学べるセミナー：グリーンインフラの評価と活用方法」・「高強度の降雨に対応する斜面緑化を考える」を掲載

7. 英文誌 Landscape and Ecological Engineering (LEE) の発行

2019年発行分より、LEE誌はオンラインジャーナルとして発行されている。また、2023年1月から個人オンライン購読料は不要になり、個人会員はLEE誌の論文等に無料でオンラインアクセスできるようになっている（毎年3月頃にアクセス方法について学会員に案内）。

<https://link.springer.com/journal/11355/volumes-and-issues>

(1) Vol. 18 No. 4 : 2022年10月発行 (6編)

(2) Vol. 19 No. 1 : 2023年1月発行 (18編)

(3) Vol. 19 No. 2 : 2023年4月発行 (10編)

(4) Vol. 19 No. 3 : 2023年7月発行 (18編)

8. 令和4年度日本綠化工学会賞の授与

技術賞： 中村 華子

「地域性種苗を利用した植生再生技術の社会実装を目指した一連の研究」

9. CPD

- (1) ELR2022 : 森林分野 CPD として、13名に述べ 23 のポイントを付与
- (2) 公開勉強会「海岸の連続性を考えるⅡ」 : 森林分野 CPD として、9名にポイントを付与
- (3) 技術を学べるセミナー : 森林分野 CPD を 15 名に、建設分野 CPD を 15 名にポイントを付与

10. 学会広報・交流事業

- (1) 総務部会 HP 運営ワーキンググループによるホームページの運営
- (2) 総務部会主体による会員ブログ運営と記事の企画・収集 <http://blog.canpan.info/jsrt/>
- (3) メールによる案内「ニュースメール」の配信
アドレスが登録されている個人会員と登録要請のあった賛助会員へ連絡事項を配信した。
- (4) メーリングリスト green-if の運営
希望者登録制の相互信用メーリングリスト (2023 年 7 月末 : 250 アドレス登録)

11. 研究部門におけるその他活動

(1) 防災学術連携体における活動

- ① 日本学術会議公開シンポジウム／第 15 回防災学術連携シンポジウム「気候変動がもたらす災害対策・防災研究の新展開」(2023 年 4 月 11 日 (火) 開催)において話題提供：「高強度の降雨に対応する斜面緑化を考える」 橋 隆一 (斜面緑化研究部会／東京農業大学)
- ② 一般社団法人防災学術連携体 定時総会 (オンライン) 2023 年 7 月 25 日 (火) 開催
担当：田中 淳理事が参加
- 防災学術連携体 第 5 回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」－防災・減災を担う人材をどう育成するか－ 担当：田中 淳理事が参加
- ④ その他 防災学術連携体および所属学会等からの情報提供、アンケート協力などに対応

12. 緑化植物の取り扱い方の検討 (緑化植物委員会)

7回の会議を開催し、提言 2019 のビジョンの実現に向けたガイドラインや研究集会の内容について検討を行った。

「生物多様性に配慮した緑化植物の取り扱い方に関するガイドライン 2023」(案)に対する意見募集(2023 年 3 月 29 日 (水)～4 月 16 日 (日))を行い、意見を参考に原案を修正し、理事会に起草した。理事会の承認を受け、学会から「生物多様性に配慮した緑化植物の取り扱い方に関するガイドライン 2023」が公表された(日本綠化工学会誌第 48 卷 4 号掲載、2023 年 5 月発行)。

13. その他事業

- (1) 日本学術会議に関する協力団体としての対応 基本情報の登録／資料提供・情報交換
「持続可能な発展のための国際基礎科学年 (IYBSSD2022)」への協力
- (2) 他団体行事への後援・共催等
 - ・2025 年国際芝草学会研究会議 (ITRC) の後援
 - ・日本綠化工協会 第 42 回綠化工技術講習会の後援 講師の派遣
開催日：令和 4 年 9 月 15 日 (木)～9 月 16 日 (金) 会場：東京農業大学
 - ・日本綠化工協会 第 43 回綠化工技術講習会の後援 講師の派遣
開催日：令和 5 年 7 月 24 日 (月)～7 月 25 日 (火) 会場：東京農業大学

14. 会員数 (令和 5 年 7 月末現在。括弧内は、←前年度末、←前々年度末、←前々々年度末 の数)

- (1) 名誉会員：8 名 (←9 名 ← 8 名 ← 8 名)
- (2) 正会員：582 名 (←560 名 ← 569 名 ← 573 名)
- (3) 学生会員：79 名 (←65 名 ← 80 名 ← 72 名)

(4) 賛助会員：53 団体 (\leftarrow 53 団体 \leftarrow 51 団体 \leftarrow 51 団体)

(5) 購読会員：32 団体 (\leftarrow 33 団体 \leftarrow 35 団体 \leftarrow 34 団体)

※ 大会発表のため入会する学生会員に対する会費の優遇措置を 2015 年度より実施、継続。

広告イメージ

紙面 1/4 サイズ

(別表2) 第二号議案

2022年度 収支報告書

(2022年8月1日～2023年7月31日)

日本綠化工学会

	費　目	予算額(A)	決算額(B)	差額 (B-A)	対予算割合 (B/A×100)	摘要
収入の部	正会員費	4,400,000	4,110,000	-290,000	93.41	正会員 575名 / 今年度入金 514名 (@8,000)
	賛助会員費	1,820,000	1,855,000	35,000	101.92	賛助会員 53団体 / 今年度入金 53団体 (@35,000)
	購読会員費	256,000	294,000	38,000	114.84	購読会員 35団体 / 今年度入金 37団体 (@8,000)
	学生会員費	200,000	236,000	36,000	118.00	学生会員 78名 / 今年度入金 59名 (@4,000)
	入会登録料	24,500	32,200	7,700	131.43	46名 (@700)
	英文誌購読料	132,000	26,400	-105,600	20.00	
	投稿料	500,000	342,000	-158,000	68.40	Vol.48-1～Vol.48-4 分
	広告料	1,000,000	1,380,000	380,000	138.00	Vol.48-1～Vol.48-4 分
	雑収入	1,000,000	759,891	-240,109	75.99	別刷・BN販売収入、著作権使用料、利息等
	小計	9,332,500	9,035,491	-297,009	96.82	
支出の部	繰越金	6,972,355	6,972,355			
	合計	16,304,855	16,007,846	-297,009	98.18	
	会議費	50,000	0	-50,000	0.00	理事会 会議室借上げ費
	旅費交通費	100,000	13,560	-86,440	13.56	理事会交通費
	事務人件費	335,000	751,749	416,749	224.40	口座振替システム基本料金、HP・ML管理費、サーバレンタル料、Webサイト更新費
	通信費	330,000	347,324	17,324	105.25	会費請求書発送費、電話・FAX料、Zoomライセンス
	事務用品費	100,000	75,642	-24,358	75.64	学会賞賞状・副賞、総務部会事務用品費
	学会誌刊行費	4,000,000	6,714,073	2,714,073	167.85	投稿査読等システム・J-stage掲載料、冊子体印刷製本発送、投稿手数料補助費
	英文誌出版分担金	700,000	163,200	-536,800	23.31	英文誌出版分担金
	大会補助費	200,000	200,000	0	100.00	大会開催補助費
	研究部会補助費	700,000	0	-700,000	0.00	研究部会活動費補助
	委員会等経費	400,000	0	-400,000	0.00	会議室使用料・旅費、編集委員会(通常号)・編集委員会(大会号論文)部門・技術報告部門・緑化植物委員会
	事務委託費	1,850,000	1,853,883	3,883	100.21	学会事務業務委託費(会員入退会、会費徴収、会計事務業務等)
	諸会費	160,000	180,000	20,000	112.50	JABEE、JAFEE、防災学術連携体
	災害特別対策費	25,000	0	-25,000	0.00	災害調査費用 他
	雑費	30,000	7,395	-22,605	24.65	振込手数料 他
	記念事業費	50,000	-21,538	-71,538	-43.08	参加費収入¥41,538
	基金積み立て	0	0	0	0.00	
	小計	9,030,000	10,285,288			
	予備費	7,274,855	5,722,558	-1,552,297	78.66	
	合計	16,304,855	16,007,846	-297,009	98.18	

次期繰越金

5,722,558

2022年度 日本綠化工学会の収支決算内容を上記のとおりご報告申し上げます。

2023年9月1日

日本綠化工学会経理担当理事 入山 義久



(別表3)

2022年度 貸借対照表 (和文誌・英文誌)

2023年 7月 31日現在

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
現 金	25,751	前受け会費	346,000
預 け 金	7,503,576	未払い費用	997,700
未 収 金	666,950	基 金	1,130,019
		次期繰越金	5,722,558
合 計	8,196,277	合 計	8,196,277

一 財 産 目 錄 一

資産の部

科 目	摘 要	金 額
現 金	事務局	25,751
	みずほ銀行 本郷支店	1,891,402
預 け 金	本郷郵便局	4,482,155
	三井住友	1,130,019
	小 計	7,503,576
未 収 金	BN販売	6,350
	別刷り代	28,600
	投稿料	75,000
	会費	227,000
	広告費	330,000
	小 計	666,950
合 計		8,196,277

負債の部

科 目	摘 要	金 額
前受け会費	正会員	243,400
	賛助会員費	3,000
	購読会員費	8,000
	学生会員	91,600
	小 計	346,000
未 払 費 用	事務人件費	168,300
	学会誌刊行費	829,400
	小 計	997,700
合 計		1,343,700

一 会計監査報告 一

2022年度(2022年 8月 1日 ~ 2023年 7月 31日) 収支決算報告書および財産目録に基づき、帳簿類を監査したところ、適正であることを認めます。

2023年9月1日

2022年度 日本綠化工学会

監事 吉崎 真司



同上

監事 田中 賢治



(別表 4)

2022年度 基金 収支報告書

(2022年 8月 1日 ~ 2023年 7月31日)

日本綠化工学会

	費　目	予算額 (A)	決算額 (B)	差額 (B-A)	対予算割合 (B÷A×100)	摘要
収入の部	前期より繰り越し	1,130,009	1,130,009	0	-	
	利子収入	0	10	10	-	
	一般会計より戻し入れ	0	0	0	-	新規積み立て
	合　計	1,130,009	1,130,019	10	100.00	
支出の部	一般会計へ繰り入れ	0	0	0	-	
	一般会計へ貸し出し	0	0	0	-	
	合　計	0	0	0	-	

次期繰越金		1,130,019
-------	--	-----------

広告イメージ

紙面 1/3 サイズ

(別表 5)

2022年度 阿蘇プロジェクト活動 収支報告

2022年4月1日～2023年6月30日

日本綠化工学会 生態・環境緑化研究部会

	費　目	決算額	摘要
収 入 の 部	公財自然保護助成基金 助成金	598,000	2022年4月 公益財団法人自然保護基金より入金
	2021年調査費	447,480	株式会社一成
	原稿料 造園学会	12,000	ランドスケープ特集寄稿
	環境省九州地方環境事務所	979,999	2022年普及事業
	繰越金・寄付金	143,049	2021年度末現金+寄付金
	合　計	2,180,528	
支 出 の 部	資材・消耗品費	91,741	調査、活動用資材購入費用等
	委託費	57,596	種子貯蔵・発送料 2022年使用種子分
	賃金・謝金	110,000	謝金等
	旅費	921,688	現地活動旅費、移動費用
	交通・通信・運搬費	310,956	宅配料金、現地輸送費
	印刷費	279,638	
	会議費	46,124	会場使用料
	借用費	257,550	現地施設借用・使用料
	雑経費	56,235	振込手数料／ボランティア保険
	学会本部繰り入れ費用	49,000	2023年6月 本部口座へ送金
	小　計	2,180,528	
	合　計	2,180,528	2023年5月 助成報告終了/確定ずみ
次期繰越金		0	

2022年度 阿蘇小規模崩壊地復元プロジェクトの収支決算内容を上記のとおりご報告申し上げます。

2023年7月7日

上記内容に相違が無いことを確認しました。

2023年9月4日

日本綠化工学会 経理担当理事



(別表 6) 第三号議案

日本綠化工学会 令和 5 年度事業計画（案）

（令和 5 年／2023 年 8 月 1 日～令和 6 年／2024 年 7 月 31 日）

1. 第 54 回日本綠化工学会大会の開催

開催年月日：令和 5 年 9 月 20 日（水）～22 日（金）

開催地：新潟コンベンションセンター 朱鷺メッセ（新潟県新潟市）および周辺

発表題数：64 題（口頭発表 16 件、ポスター発表 48 件）

（論文 13 件、技術報告 23 件、研究交流発表 28 件）

公開シンポジウム：「新潟の海岸から学ぶグリーンインフラ」（9 月 21 日（木））を実施

現地見学会：「新潟の海岸で感じるグリーンインフラ」（9 月 22 日（金））を開催

※第 55 回大会は、2024 年 9 月 12 日（木）～14 日（土）に東京農業大学にて開催予定。

※第 56 回大会は、2025 年 9 月に大阪公立大学にて開催予定。

2. 研究会等

(1) 生物多様性緑化研究部会

「未来の里山における人と自然を考える 連続講演会」を共催にて毎月 1 回開催。

主催：明治大学農学部 応用植物生態学研究室 後援：一般財団法人 世田谷トラストまちづくり

第 5 回：2023 年 8 月 2 日 秋山幸也「ナラ枯れで更新される雑木林／生物的現象」

第 6 回：2023 年 9 月 26 日 田口洋美

「山村の生物多様性を基盤とした狩猟採集活動から里山の未来を考える」

第 7 回：2023 年 10 月 4 日 小島涉「カブトムシとナラ枯れ（仮）」

第 8 回：2023 年 11 月 21 日 中沢一将「管理の一元的な記録（仮）」

その後も月 1 回程度開催予定。

(2) 斜面緑化研究部会

・第 54 回日本綠化工学会大会にて研究集会の開催

研究集会 4 企画担当：橘 隆一

開催日時：2023 年 9 月 20 日（水）14：30～16：00 会場：201B

テーマ：高強度の降雨に対応する斜面緑化を考える（II）

・適宜、強会や現地見学会の開催を予定。

(3) 生態・環境緑化研究部会

① 阿蘇の現地活動の継続（阿蘇ワーキングチーム）

② 環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所と連携し地域性種苗の利活用促進に関わる活動を継続

（環境省直轄登山道における 2022 年度実播工実施箇所のモニタリング、維持管理を継続）

在来緑化植物の地域性の検討、情報発信

(4) 緑・健康研究部会

「緑と人の健康」に関するオンラインセミナーを開催予定（開催時期未定）。

(5) 第 54 回大会 企画研究集会

① 研究集会 1 企画担当：今西亜友美

開催日時：2023 年 9 月 20 日（水）9：30～11：00 会場：201A

テーマ：OECM で生きる！生物のすみかとしての文化的緑地

② 研究集会 2 企画担当：平林 聰・加藤 順

開催日時：2023 年 9 月 20 日（水）9：30～11：00 会場：201B

テーマ：i-Tree による生態系サービス評価－実務での活用事例と日本発の新規機能実装への展望－

研究集会 3 企画担当：小林達明・森本淳子・岡 浩平
開催日時：2023年9月20日（水）14:30～16:00 会場：201A
テーマ：ランドスケープの生態的レジリエンスを考える

(現在活動中の緑化工研究部会)

斜面緑化研究部会	都市緑化技術研究部会	生態・環境緑化研究部会
乾燥地緑化研究部会	積雪寒冷地緑化研究部会	緑・健康研究部会
生物多様性緑化研究部会	海岸林・沿岸域緑化研究部会	

3. シンポジウム

(1) 第54回大会公開シンポジウム

開催年月日：2023年9月21日（木）14:30～16:45

会 場：朱鷺メッセ 3F 302（中会議室）

テーマ：「新潟の海岸から学ぶグリーンインフラ」

(2) その他、企画シンポジウムの開催

4. 現地見学会

(1) 第54回大会現地見学会

開催年月日：2023年9月22日（金）9:00～15:00

見学場所：柏崎市松波、新潟市青山海岸

テーマ：「新潟の海岸で感じるグリーンインフラ」

(2) その他、現地見学会の開催

5. 緑化工セミナー（記念・企画事業）

学会諸活動をPRすること、学生や若手に活動内容を積極的に伝え、当学会の魅力を伝えることを目的として「緑化工セミナー」を企画・開催。各セミナーを不定期に複数回開催予定。

- (1) 「研究部会セミナー」（研究部会の活動内容をわかりやすく紹介）
- (2) 「未来の緑化工セミナー」（若手による研究紹介、新博士紹介）
- (3) 「技術を学べるセミナー」（緑化技術に関する発表・セミナー・緑化技術交流会）

6. 学会誌の発行：4回発行予定

- (1) 第49巻1号（デジタル版+冊子版）：令和5年8月31日発行 171ページ（第54回大会特集号）
- (2) 第49巻2号（デジタル版+冊子版）：令和5年11月末 発行予定
- (3) 第49巻3号（デジタル版+冊子版）：令和6年2月末 発行予定
- (4) 第49巻4号（デジタル版+冊子版）：令和6年5月末 発行予定

第49巻の発行形態はJ-Stageと全文PDFの併用とし、賛助会員・購読会員向けに冊子版を刊行する。冊子版の刊行は第49巻までとする。第50巻1号（2024年8月刊行）以降は電子化（J-Stageのみ）に移行する。学会誌電子化に伴い、J-Stageには掲載されないコラムや学会記事をニュースレターとして発行する。上記の学会誌の発行形態の変更に伴い、令和5年度をもって「購読会員」の区分を廃止する予定である。このことについて、令和6年通常総会で会則の改定を審議する予定。

7. 英文誌 Landscape and Ecological Engineering (LEE) の発行：

年4回発行予定 (Vol. 19 No. 4, Vol. 20 No. 1, No. 2, No. 3)

8. 学会賞の授与

令和5年度日本緑化工学会賞の授与（令和6年総会にて授与予定）

9. CPD

第 54 回日本綠化工学会大会の公開シンポジウムおよび、研究集会、現地見学会を森林・自然環境技術者教育会 (JAFEE) の CPD プログラムとして登録し、CPD ポイントを付与する。

綠化工セミナー等に、必要に応じて CPD プログラムとして登録し、CPD ポイントを付与する。

10. 学会広報・交流事業

- (1) 総務部会 HP 運営ワーキンググループによるホームページの運営
- (2) 会員ブログの運営と各部会 SNS 等との連携・管理
- (3) 会員向け連絡「ニュースメール」の配信、体制確保
- (4) メーリングリスト green-if の運営

11. その他

- (1) 緑化植物委員会 第 54 回日本綠化工学会大会にて研究集会の開催
開催日時：2023 年 9 月 20 日（水）16:15～17:45 会場：201A
- (2) 学術会議への参加協力および活動
- (3) 防災学術連携体における活動
- (4) その他（隨時・適宜実施）

(別表 7) 第四号議案

第四号議案

令和5(2023)年度 予算書(案)

令和 5(2023)年 8月 1日 ~ 令和 6(2024)年 7月 31日

日本綠化工学会

	費 　目	予算額 (A)	令和 4年度 決算額 (B)	決算額との 差額(B-A)	摘要
収入の部	正会員費	4,080,000	4,110,000	-30,000	510名@8,000
	賛助会員費	1,855,000	1,855,000	0	53団体@35,000
	購読会員費	280,000	294,000	-14,000	35団体@8,000
	学生会員費	220,000	236,000	-16,000	55名@4,000
	入会登録料	24,500	32,200	-7,700	35名@700
	英文誌購読料	20,000	26,400	-6,400	冊子5名@4,000
	投 稿 料	340,000	342,000	-2,000	
	広 告 料	1,000,000	1,380,000	-380,000	
	雑 収 入	750,000	759,891	-9,891	別刷・BN販売収入、著作権使用料、利息等
	小 計	8,569,500	9,035,491	-465,991	
支出の部	繰 越 金	5,722,558	6,972,355		
	合 計	14,292,058	16,007,846	-1,715,788	
	会 議 費	50,000	0	50,000	理事会 会議室借上(ナ費)
	旅費交通費	100,000	13,560	86,440	理事会交通費
	事務人件費	505,000	751,749	-246,749	口座振替システム基本料金、HP・ML管理費、サーバレンタル料、HP作成費 ¥170,000
	通 信 費	350,000	347,324	2,676	会費請求書発送費、電話・FAX料、Zoomライセンス
	事務用品費	100,000	75,642	24,358	学会賞状・副賞、総務部会事務用品費
	学会誌刊行費	5,000,000	6,714,073	-1,714,073	投稿査読等システム・J-stage掲載料、冊子体印刷製本発送経費
	英文誌出版分担金	165,000	163,200	1,800	英文誌出版分担金
	大会等補助費	400,000	200,000	200,000	大会￥200,000、綠化工セミナー￥150,000、シンポジウム・現地見学会 ￥50,000
	研究部会補助費	700,000	0	700,000	研究部会活動費補助
	委員会等経費	400,000	0	400,000	会議室使用料・旅費、編集委員会(通常会)・編集委員会(大会会論文) 部門・技術報告部門・綠化植物委員会
	事務委託費	1,860,000	1,853,883	6,117	学会事務業務委託費(会員入退会、会費徴収、会計事務業務等)
	諸会費	160,000	180,000	-20,000	JABEE、JAFEE、防災学術連携体
	災害特別対策費	25,000	0	25,000	災害調査費用 他
	雑費	30,000	7,395	22,605	振込手数料 他
	記念事業費	0	-21,538	21,538	
	基金積み立て	0	0	0	
	小 計	9,845,000	10,285,288	-440,288	
	予備費	4,447,058	5,722,558	-1,275,500	
	合 計	14,292,058	16,007,846	-1,715,788	

2023年9月1日

日本綠化工学会経理担当理事 入山 義久

2023年度 基金 予算 (案)

	勘定科目	予算額	備考
収入の部	前期より繰り越し	1,130,019	
	利子収入	10	
	一般会計より戻し入れ	0	
	合 計	1,130,029	
支出の部	一般会計へ繰り入れ	0	
	一般会計へ貸し出し	0	
	合 計	0	残高予定￥ 1,130,029
次期繰越金		1,130,029	

3つの特長で強酸性土壌を長期的に緑化!



1 転炉スラグにより
土壤改善(中和効果)

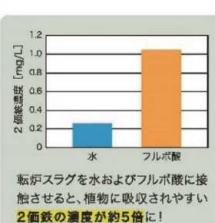
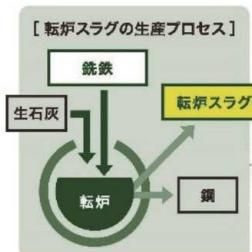
2 フルボ酸による
生育促進

3 耐酸性種子の
活用

転炉スラグが酸性土壌を中和し、
植物の育ちやすい環境に!
ミネラル分も豊富に含みます。

フルボ酸が肥料分を
キレート化し、ミネラルの
吸収効率UP!

酸性環境に強い種子を
活用する事で、長期的な
緑化を可能にします!



転炉スラグって? //

- pHが12と高く、酸性土壌の中和化が可能!
- 水に溶けないため、中和効果の持続性有!
- 植物の生長に必要な鉄分等のミネラル含有!

フルボ酸って? //

- 動植物の遺骸が自然環境の中で長い年月をかけて微生物などにより分解や重合を繰り返してできる有機物の事です。
- 光合成を活性化して生長を促進!
- キレート効果で肥料成分の吸収効率が向上!
- 土壌pHの緩衝効果も!



グリーンスラッガー フルボシリーズ

pH 3.0~5.0 の強酸性土壌の緑化に!
GREEN SLUGGER SERIES

第4回「エコプロアワード」奨励賞受賞
第6回「ジャパン・レジリエンス・アワード」
優秀レジリエンス賞受賞



前田工織株式会社

東京本社 / 〒105-0011 東京都港区芝公園2-4-1
東京営業部 芝パークビルA館12F
TEL.03-6402-3944
福井本社 / 〒919-0422 福井県坂井市春江町沖布目38-3
福井営業部 TEL.0776-51-9200

会員の異動

(令和 5 年 3 月 1 日～令和 5 年 10 月 31 日)

入会 正会員 13 名

氏名	勤務先
大西 崇太	前田工織株式会社
青柳 一翼	日本工営株式会社
周 小小	
大黒 俊哉	東京大学大学院
夏目 壽一	
本橋 篤	
帖佐 直	東京農工大学大学院
篠田 貴	NEXCO 総研
服部 紘依	
松本 浩	
矢嶋 準	ヤマハ発動機株式会社
浪岡 克行	日新産商株式会社
影山 丈倫	日本工営株式会社

入会 学生会員 16 名

氏名	勤務先
小切 壮仁	神戸大学大学院
小林 徹哉	
中井 健太	北見工業大学
駒ヶ嶺 光	
田中 慶太	京都大学
中山 恵都子	東京農業大学
奥山 鳩大	神戸大学
植野 晴子	北海道大学大学院
本郷 悠夏	北海道大学
伊藤 直也	中央大学
武内 千紘	京都大学大学院
中原 康成	香川大学大学院
任 睿	神戸大学
Bienvenu BIRAMAHIRE	東京農工大学
Tong Morigen	島根大学
星田 遼太	

退会 正会員 22 名

米村惣太郎, 山辺正司, 川井伸郎, 中屋雅喜(鹿児島県), 中村勝衛(日本植生株式会社), 飯塚敦(神戸大学), 松井宏光(NPO 森からつづく道), 西田智子(農業・食品産業技術総合研究機構), 國正あゆ, 森下和路, 高橋功一(東京大学大学院), 安江匡弘(株式会社ニシノ), 阿野晃秀(京都先端科学大学), 菅原広史(防衛大学校), 鈴木貴博, 古賀和子, 上野直哉(国土防災技術株式会社), 小柳津倫生(富士見工業株式会社), 鄭青穎(弘前大学), 松本和浩(静岡大学), 今井由江, 東若菜(神戸大学大学院)

退会 学生会員 14 名

黒宮健佑(千葉大学大学院), 李鹿(京都府立大学大学院), 田中七海, 五十嵐紅梨歌(武庫川女子大学大学院), 桑原沙月(大阪府立大学), 矢動丸琴子(千葉大学), 三浦直己(北見工業大学), 崔麗華(京都大学), 中込光穂(静岡大学), 岡愛香梨(静岡大学), WU XIMEI(明治大学大学院), 紀正(明治大学大学院), 森優芽(東京農業大学), 紀昊青(千葉大学)

逝去 正会員 1 名

楠木崇雄

編集後記

様々な学会のニュースレターを参考にして、表紙や内容を検討してみました。考えあぐねた結果、当学会のニュースレターを“コミュニティレター”と称してみました。そのコンセプトは、

- ・手に取りたくなる、魅力のある内容にすること。
- ・皆さんが“超”気軽に協力（投稿）できること。
- ・手間をかけずに継続できる発行体制を取ること。

に、集約されると思います。
すなわち、このレターを全ての学会員が気軽に寄り合ふコミュニティの場としたいです。
表紙には、やはり写真の一枚もないとなしいです。

そこで、コメントとともに一枚はめ込んでみました。載せたい人もいると思います。自慢の写真（スケッチも可）を一言コメントとともにお寄せ下さい。

事務的な記事はさておき、今回のように書評だけでは物足りないですから、J-Stage には掲載されないコラム類を今後、充実させていきます。新入会員（個人・団体）を温かく迎えるようなコラムや、各研究部会幹事によるリレーコラムなる企画も検討中です。そのうちたずきが回ってくると思います（駄伝？）。そんな時には、歓声を上げて泣いて受け取って下さい。とにかく皆さま、レターを全力で盛り上げて参りましょう。

（橋 隆一）

複写される方へ（これまでの本紙同様に、学術著作権協会に追加委託する予定です）

本学会は有限責任中間法人 学術著作権協会(学著協)に複写に関する権利委託をしていますので、本誌に掲載された著作物を複写したい方は、学著協より許諾を受けて複写して下さい。但し、社団法人日本複写権センター(学著協より複写に関する権利を再委託)と包括複写許諾契約を締結されている企業の社員による社内利用目的の複写はその必要はありません（＊社外頒布用の複写は許諾が必要です）。

権利委託先：有限責任中間法人学術著作権協会

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル 3 階

電話：03-3475-5618 FAX：03-3475-5619 E-mail：info@jaacc.jp

注意：複写以外の許諾（著作物の転載・翻訳等）は学著協では扱っていませんので、本学会までご連絡ください。

アメリカ合衆国において本書を複写したい場合は、次の団体に連絡してください。

Copyright Clearance Center, Inc.

22 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA

Pone 1-978-750-8400 Fax.1-978-646-8600

日本綠化工学会 コミュニティレター Community Letter of the Japanese Society of Revegetation Technology

創刊号 Vol. 1 No. 1

令和6年1月31日 発行 (January 2024)

編集兼発行人 橋 隆一（日本綠化工学会 レター担当）

発 行 所 日 本 緑 化 工 学 会

〒113-0001 東京都文京区白山 1-13-7

Tel. 03-3818-8281 Fax. 03-3818-8282

事務局：E-mail: office@jsrt.jp

編集・投稿管理：E-mail: r3tachib@nodai.ac.jp